

紫波町管理型浄化槽整備 P F I 事業 モニタリング概要書

平成 2 0 年 3 月

本概要書は、モニタリングを委託した日本上下水道設計株式会社の報告書から主要部分を抜粋して調製したものである。

1. 目的

平成 1 7 年 1 2 月 1 4 日付け契約の紫波町管理型浄化槽 P F I 事業により、紫波町管理型浄化槽整備事業を実施している。この事業において特別目的会社紫波 P F I 浄化槽整備株式会社（以下、S P C という）が提供したサービスの水準、財務状況等を測定・評価し、公共サービスの適正かつ確実な提供と事業の継続性を担保することを目的に、紫波町管理型浄化槽整備 P F I 事業モニタリング業務を実施した。

2. 事業実施状況

(1) 浄化槽設置基数

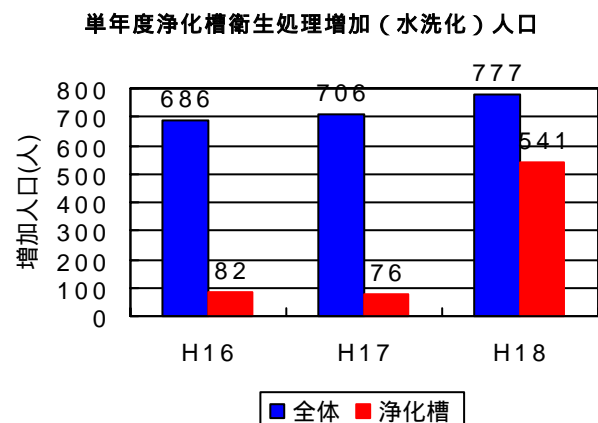
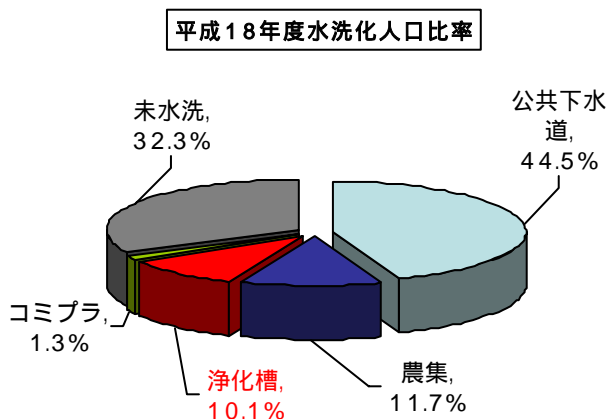
集合処理区域以外の町民へ水洗化サービスの提供を確保し、生活環境の改善と公用水域の水質保全のため、紫波町管理型浄化槽 P F I 事業を平成 1 8 年度から実施。平成 1 9 年 1 0 月までに 2 2 9 基を設置した。対象件数 1 , 2 1 4 件に対し 1 9 % の普及率となっている。年度・地区別の設置基数は表. 1 のとおりである。

表. 1 町管理型浄化槽設置申請件数
(H19.10 末現在、単位：基、世帯)

区分	日詰	古館	水分	志和	赤石	彦部	佐比内	赤沢	長岡	計
1 8 年度	0	4	14	30	8	9	36	30	9	140
1 9 年度	0	3	5	15	3	2	24	26	11	89
計	0	7	19	45	11	11	60	56	20	229
対象世帯数	4	36	133	113	81	73	290	300	184	1,214
普及率	0%	19%	14%	40%	14%	15%	21%	19%	11%	19%

(2) 水洗化人口比率に見る浄化槽事業

平成 1 8 年度に水洗化した人口を見ると、町全体で 7 7 7 人増加している。うち浄化槽は 5 4 1 人で、平成 1 8 年度水洗化人口の約 7 0 % となっている。浄化槽水洗化人口は、前年と比較して約 7 倍の伸びとなっている。



(3) 法定検査結果

浄化槽法に規定する設置後の水質検査において、平成18年度に設置した浄化槽140基の検査結果は表.2のとおりであり、不適正となった浄化槽は無く、BODの検査結果は平均15mg/lで、浄化槽法で定める技術上の基準BOD20mg/lを下回っていた。

法定検査受検率は、全国平均23.0%に対し、岩手県が85.4%、管理型浄化槽では100%であった。

表.2 平成18年度設置浄化槽法定検査結果

項目	総合判定			合計
	適正	おおむね適正	不適正	
7条検査	93基	47基	0基	140基
比率	66.4%	33.6%	0%	100%

(4) 建設事業費縮減効果

平成18年度の浄化槽整備事業費について、町が直営で実施した場合(173,056千円)とPFI事業の実施額(136,783千円)を比較すると、表.3のとおりPFI事業実施目的の柱の一つであるコスト縮減効果は約21%と十分に達成していることが確認できた。

表.3 浄化槽整備事業費

(単位:千円)

人槽区分	設置基数(基)	町が直営で実施		PFI実績		縮減効果	
		単価	所要額	単価	実施額	縮減額	縮減率
5	5	939	4,695	790	3,950	745	16%
7	122	1,095	133,590	920	112,240	21,350	16%
10	12	1,392	16,704	1,170	14,040	2,664	16%
25	1	3,661	3,661	3,081	3,081	580	16%
間接費			14,406		3,472	10,934	76%
計	140		173,056		136,783	36,273	21%

(5) 維持管理事業費縮減効果

維持管理費については、事業実施1年目であり適正な比較は困難であるが、建設費同様に、町が直営で行った場合とPFI事業の実績を比較すると、表.4のとおり約49%のコスト縮減となった。

表.4 浄化槽維持管理費

(単位:千円)

項目	町が直営で実施	PFI事業	縮減効果
維持管理作業費	4,656	2,707	1,949 (42%)
間接費	2,066	735	1,331 (64%)
合計	6,722	3,442	3,280 (49%)

(6) SPCによる整備への取り組み

事業実施の前提であるSPCによる浄化槽設置者に対する設置相談及び工事説明、資金計画相談などは適切に対応がなされている。

SPCは、PFI事業に応募するにあたって、住民サービス向上のための提案をしているが、この提案の平成18年度実施状況は、表.5のとおり概ね実行されている。

表.5 SPC提案 浄化槽工事付帯サービス実施状況

住民サービス項目	実績
放流管12メートル以内の無償工事	延べ1,036メートルを実施
仮設の無臭トイレの無料レンタル	82件
個人負担の排水ポンプ修理費	該当なし
工事完工アンケートの実施	逐次業務に反映
「平太くんカード」との連携	ポイント付与 累計 954,000円

3. SPC財務状況

SPCの経営分析は、建設業務を反映し始めた平成18年7月から平成19年6月までの第2期を対象として行った。

第2期の売上高は28,436万円となっており、これから売上原価、販売費及び一般管理費、営業外収支の合計額を差し引いた経常利益は約62万円、税引き後の当期純利益は約43万円であった。また、主要な指標についての比率を算出し、経営分析を行った結果は表.6のとおりである。本表に表示していない事項(工事原価報告書、販売費及び一般管理費など)を分析した結果は、一定の努力、事業効果の向上への兆候が見られる。

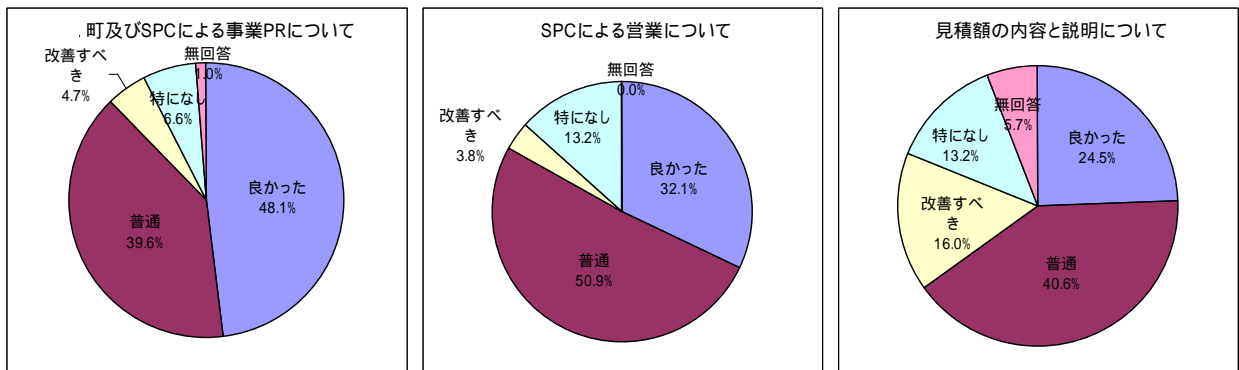
表.6 SPC経営分析(第2期)

項目	計 算 式	比率	備 考
売上高経常利益率	$\frac{\text{利 益 } 622,406}{\text{売 上 } 284,361,188}$	0.22%	企業の収益性を表す指標。 売上に対する利益の割合。 比率は高い方がよい。
自己資本経常利益率	$\frac{\text{利 益 } 622,406}{\text{資 本 } 18,504,585}$	3.36%	企業の収益性を表す指標。 自己資本を効率的に使っているかを表す。 比率は高い方がよい。
流 動 比 率	$\frac{\text{流動資産 } 80,317,724}{\text{流動負債 } 61,823,139}$	129.92	企業の安全性を表す指標。 短期的な支払能力判断。 150%以上あれば問題なし。
当 座 比 率	$\frac{\text{現金預金 } 75,694,724}{\text{流動負債 } 61,823,139}$	122.44	企業の安定性を表す指標。 流動比率により厳密に支払能力を判断。 100%以上あれば問題なし。 比率は高い方がいい。
自 己 資 本 比 率	$\frac{\text{自己資本 } 18,504,585}{\text{総資産 } 80,327,724}$	23.04%	企業の安定性を表す指標。 企業の財源に対する自己資金の割合。 比率は高い方がいい。

4. アンケート調査結果

平成19年9月末までに浄化槽を使用している住民を対象に、今後の事業推進へ役立てることを目的に、アンケート調査を実施し、106件（回答率51%）の回答が得られた。事業のPR、営業、工事、維持管理などについて、「良かった」「普通」「改善すべき」「特になし」を選択する形式で調査した。調査項目全てにおいて、概ね評価されているが、個別意見を見ると、PR不足や工事の期間、見積内容の十分な説明がなされていないなど、改善、再検討すべき事項もあった。

主な調査項目と回答結果



5. 今後の事業改善に向けた対応

今後、事業を行ううえで、再検討、改善を要する主な項目が明らかになった。町は県道管理者や土地改良区等と積極的に折衝し、放流許可申請の簡略化に努める、SPC内で技術研修及び住民への説明のために接遇研修を行い、社員の資質の向上に努める等が必要である。

また、年度ごとに事業実施重点地域を定める等、集中的な事業展開を行い、効率向上を図ることも必要である。

6. その他の事業効果

平成19年度の満足度調査によると、町管理型浄化槽整備で水洗化が進んでいる佐比内、赤沢地区で、前回に比較し満足度が上昇している。

町民満足度調査 下水道 満足、やや満足の比率 [%]

